

第4回新しい学校づくり三好市・東みよし町地域協議会議事録

平成20年2月22日（金）

午後6時30分から午後9時00分まで

辻高等学校 研修会館

【協議題】 「新しい学校の教育について」

【協 議】

委員

只今、委員さんから質問がありました。この協議会では、3月末までに審議をまとめるのかどうかなど、今後の会議の日程について教えていただけますか。

事務局

今回の協議会は第4回目になります。前回は「新しい学校の基本方針」をご協議いただきましたが、本日は「設置学科・コース」及び「教育内容」についてご協議いただきます。その後、再編統合までに協議しなければならない「学校間連携」や「教育環境の整備」、また報告書について協議していただくことになっております。年度末を迎えており、1回だけの協議では時間的に無理だと思います。年度を越すこととなりますが、それだけ時間を費やす内容でもあります。事務局では、会議の日程を早い時期に決めたいとは思っていますが、次回の日程はまだ決まっていません。

委員

勝手に今年度末までと思っていました。次年度どうなるのかなあとと思いますが、どこかで区切りがあるのでしょうが・・・。

県教育委員会

他の地域協議会は、H18年度からスタートし、2年間にわたりご協議いただきました。三好地域の協議会は、立ち上がりが遅れた関係で他地域より進度は遅れていますが、密度濃くご協議いただいております。他の地域協議会はほぼ2年かけていますので、この地域におきましては、年度をまたぐこととなりますが、回数は、まだ2回ないし3回は必要と予想しております。他の地域も審議の状況によって5回だったり6回だったり、同じ回数で終わっていません。この地域についても審議の状況により変わってまいります。残り複数回は必要であると思います。

○「第4回新しい学校づくり三好市・東みよし町地域協議会における意見整理」の説明

委員

前回の意見のまとめとして、この内容でよろしいでしょうか。

委員

意見整理はこれでいいのですが、最後の「看護師養成教育」の部分でもう一度確認をさせていただきたいのです。それはどういうことかと言うと、この地域としては希望があるということです。それは三好教育振興協議会があり、この組織は、現在東みよし町、三好市両方の教育委員会、幼小中高 PTA や校長会、青少年育成センター、教育研究所等の代表が集まっているものです。平成19年度は私が会長であり、その任務があります。教育振興を図る目的のもとに協議していますが、5つの事業の一つとして児童生徒の進路に関することがあり、その中で例年この協議会から県の教育長宛に要望をあげています。平成19年度も要望をあげました。その三好地域での要望の中に、この地域として看護科設置への要望があることが含まれております。この地域協議会では、地域からそういう要望があるんだということを知っておいていただきたいのです。これまでの協議の流れで看護科の設置が難しいことは理解できます。次年度の教育振興協議会で、「地域協議会では協議したが、看護科設置は難しい」とのことは説明しておきます。ただ、この地域でそういう要望があったことだけ確認をさせていただきたいのです。第2回の地域協議会では、看護科についての状況の説明が事務局からもありましたし、美馬地域でも難しいとの結論が出ておりますし、今の段階では難しいことはわかりますが、要望があることだけは知っておいていただきたいのです。

委員

教育振興協議会としては、難しいとの結果だけでいいのですか。こうした資料だけでいいのですか。

委員

こうした意見は、議事録として最後に整理するんですね。

県教育委員会

議事録は毎回作成しております。委員の言われたご意見は、委員に確認の上でホームページに掲載しております。

今回の資料は会議を進めていく資料であり、報告書ではありません。今後、新しい学科、学校間連携、地域との連携、教育環境の整備等の議論も含め、最終回で、まとめた報告書案を提示し、協議することとなります。報告書はそれまでの協議を最終的にまとめたものであり、発言は毎回議事録として整理しております。

委員

議事録はこの会の最終に整理されて載せるのですか。

それとも意見は意見だけで、教育委員会で整理し、いろんな案に取り入れるかどうか別にして出すのですか。

県教育委員会

議事録は委員の意見をそのまま掲載させていただいており、報告書は、各委員の意見を載せるのではなく、この協議会で合意を得たものに基づいて取りまとめることとなります。

委員

その報告書もこの場で最終確認・検討するのでしょうか。

県教育委員会

そうです。今までにご協議いただいたものを取りまとめ、事務局で報告書案を作成します。その上で各委員にご確認いただき、最終回で協議いただくこととなります。

委員

本日はこれから新しい学校の「特色ある教育」、「設置学科・コース」及び「教育内容」についてご協議いただきます。まず「基本方針」についての確認がございます。事務局よろしく願いいたします。

○「新しい学校の基本方針」の説明

委員

前回の基本方針「目指す学校像」、「育てたい生徒像」はただ今の説明のとおりです。

それでは新しい学校の基本方針に基づき、「設置学科・コース」及び「教育内容」についてご協議いただきます。事務局より説明をお願いします。

○「新しい学校の設置学科・コース」及び「教育内容」の説明

委員

ただいま事務局から説明がありました、新しい学校の「設置学科・コース」、「教育内容」等についてご意見、ご質問をお願いいたします。

委員

普通科の教養実践コースの「オーラルコミュニケーション」とはどういう科目なのか教えていただきたいのですが。

事務局

英語の科目で、わかりやすく言えば、英会話です。英語でのコミュニケーションを学び、学習指導要領にも決められている科目です。

委員

もし決まっていたら教えて欲しいのですが、新しい学校をイメージするときに、普通科で何名、何クラスを想定していますか。また農業科ではどうですか。教えていただけますか。

事務局

農業科と普通科がございますが、基準は1クラス40人ですが、職業学科等につきましては実験実習があり、施設・設備等の関係から、クラス人数が40人を下回る場合もでてきています。また、コースの人数を考えられていると思いますので、付け加えますが、現在の辻高校は4クラスですがコースは5コースです。

委員

それぞれのコースで1学級ほしいのですが、施設・設備面を考えると40人では収容できないのが現状です。現在、学ぶ内容が重なっている部分もありますので、体育健康コースと福祉コースを1つにして、1学級にしています。提案させていただいている新しい学校の教育についてですが、体育健康コースと福祉コースにあたるのは健康福祉コースです。従来なら、普通科の「福祉」と「体育健康」は別のものでしたが、福祉の中での体づくりを考える必要から、この2つは切り離すことができないとして1つのコースとしています。

委員

農業科では少人数でもいいということでしょうか。

委員

基準は40人ですが、現実的に、県内の農業高校をみると1クラス40人よりも少ないのが現状です。農業科の場合、実験実習が多いことから、施設・設備も含めた教育条件を考えたとき、40人での学習には無理があるため、40人を下回る場合もあるということです。

委員

資料に「生徒一人ひとりの学習ニーズに対応して、多様な科目選択が可能となるようコースの枠をこえた総合選択制」とありますが、このあたりを説明していただきたいのですが。また、現在辻高校でも多様な科目の選択が行われているなら、その内容を教えていただけますか。

委員

現在の辻高校の総合選択制ですが、文理、人文教養、体育健康、福祉、情報科学の5つのコースがありますが、2年生でコースを選択すると、2・3年では継続して学ぶことになっています。しかし、多様な科目選択ができる総合選択制をとっており、3年では週2時間と週3時間の2つの選択機会を設定しております。例えば週2時間では、文系に進む生徒が国語を学ぶだけではなく、理

系の生徒で、コミュニケーションを学びたい生徒は国語を学ぶことができます。普通ならそれぞれのコースに個別の教科・科目が並んでいますが、総合選択制では5つのコースが横一線に並んでいるのです。逆に文系の生徒が生物を学ぶこともできます。コースの枠に縛られないで自分の学びたいものが学べる、同学年が教室やコースを越えて授業が受けられるということです。自分の自由意思で、できるだけ多くの文系や理系や教養等の中から好きな科目を取りに行くことができます。現在3年生で、枠を2つ設定していて、生徒たちは2時間学ぶ枠と3時間の枠とがあります。バイキング料理のようなシステムで、どれも味も栄養も違います。生徒たちは好きな料理（科目）を選んで食べる（学ぶ）わけです。

委員

生徒たちは主体的に自分で選択するのでしょうか。友達との関係で科目を選択するのでしょうか。

委員

友達の意識はありますが、科目選択については、生徒たちは個人で選択しているようです。ただ、教員数にも限りがあるので、希望生徒1人で開講するのは無理でありますし、3人から4人しか希望がないのであれば、第二希望を選択してもらおうなど、実際には開講できない科目もあります。教員の持ち時間数もありますが、できるだけ開設しようと努力しています。

委員

そのことは、子どもたちにとってメリットは大きいのでしょうか。

委員

生徒や保護者、教職員に学校評価を実施していますが、その中の質問項目に総合選択制についての質問があります。その調査では、90%を越えて「総合選択制について満足している」との結果が出ております。入学希望の中学校生徒も理解をしてくれているようです。現在の総合選択科目を紹介しますと、「フードデザイン」、「工芸Ⅰ」、「スポーツⅠ」、「化学Ⅱ」、「国語総合」、「数学A」、「数学B」、「地理A」、また「発達と保育」、「簿記」、「商業技術」、「原価計算」など、選択幅を広げられるよう、できるだけ多くの科目を開講できるよう努力をしています。

委員

普通科の中での選択制のようですが、農業科も含めた総合選択制を考えていないのですか。例えば大学でも、農学部で教育学部の教育を受けたいこともあります。そういったことは考えていないのでしょうか。一つの学校になるのであれば可能ではないでしょうか。

事務局

おっしゃるとおりで、大学科を越えた総合選択制も可能です。

委員

普通科に在籍していて、最初に進学だが途中で方向が変わったり、農業科でも優秀な子どもが途中で進学に切り替えるなど、いろいろな場合に対応することも必要になると思います。2つの学校が1つになるのですから、農業科の生徒が農業科の科目ではなく、普通科の科目に変えることはできないのか。

委員

1つの学校の中で科を越えては転科になりますので、現在はほとんどありませんが、農業科の生徒が自由選択科目の中で普通科の科目を選択するのは可能です。ただ農業科では、卒業までに25単位の農業の専門科目を最低限修得しておく必要があります。それ以外であれば、問題ありません。農業科の場合の総合選択制は、例えば林業系とか農業系がありますが、農業機械は林業科で学んでもよいし、農業科で学んでもよい。また、2つの科の生徒が農業機械でも加工でも畜産でも選択してよい。そういうのが総合選択制です。当然その中に、英語などの普通科目を導入することもできます。ただ、何科目開設できるかは、教員の数と時間数の問題があります。

委員

大学はほとんどやっています。今後積極的に取り入れるべきです。農業科でも企業的な農業をやりたいという生徒がいれば、商業的なことを学ぶ必要もでてくるし、資格の問題も絡んできます。一応、事務局が提案している説明された総合選択制は納得するのですが、今話したようにグローバルに考えておく必要があると考えます。

委員

統合された場合、新高校については、1年生では一緒に授業をして、自分にあった適切なコースを見つけ、2・3年生で分かれてやるのがよいのではと考えています。文理コースで入学したときは下位だったが成績が上がってくるように、目標を持たずに来ている子どもたちを育てていくシステムを作っていくべきであると思います。その点では、よくできた案だと思うし、ありがたいと思います。ただ、どちらを本校にして分校にするのかなど、学校をどうするかというような教育環境について協議していかないと、教育内容をいつまでやっても仕方がないのではと思います。とにかく、目標が定まっていない生徒を育てあげる学校をつくってほしいと思っています。

委員

協議会の始まった時から、三好高校と辻高校の再編について協議していますが、最終報告書に掲載されている三好の人々の思いはよくわかります。協議会でも地域の産業を考えた三好高校の思いを大切にすることが必要だと思います。また、子供たちの立場から考えると、選択肢ができるだけ広い方が好ましいですし、その点では私にとってもありがたい提案だと思っています。

前回の協議会で委員から意見があった三好地域の中学生の状況ですが、今年の現段階の数字では、

三好地域から美馬地域へ 70 名が進学し、逆に美馬地域からは 40 名が三好地域へ進学しています。差し引きすると 30 名が地域外へ流れているということです。これは県西部に 1 つしかない貞光工業への進学者が多いということが考えられます。また、以前は三好高校へ美馬地域から来る生徒はいなかったのですが、今年は 10 名ほど希望者がいるのです。三好高校の特色ある学校づくりが定着した結果だと思えます。「三好の子どもを三好で教育する」との意見も出ているように、協議の中でも農業科を残したい意見は強かっただけに、学科として残すのは良いことだと考えます。

委員

基本的な学力を身につける教育は大切であると思えます。今の子どもたちはゆとり教育の中で中学までゆっくり学んできた子どもたちで、学力不足も心配されます。新しい学校づくりの中でも学力を高める学科やコースを考えていくことも必要だと思えます。また、地元の子どもを地元で受け入れるためにも、不登校や登校拒否の子どもたちが学べる学科があればよいと思えます。学校の雰囲気や味を味わえるサテライトみたいな学校を考えていただければと思います。

委員

普通科と農業科の教育内容についてですが、農業科の文末で「・・・スペシャリストを養成する」とありますが、普通科はどうしても漠然としてくるのも理解できますが、総合文理コース以外の 3 コースは目標が明確でない気がします。例えば「オーラルコミュニケーション」をなぜ下へ置くのでしょうか。上段の文章で表現し、国際英語科など特色ある学校経営ができるのではないかと考えます。

委員

仮称ではありますが、教養実践コースは、いろいろな議論を聞いていまして、一番本校の特徴が出にくいコースであり、今後議論が深まって行くことが必要だと思えます。目標がない生徒が集まるコースであるイメージがありますが、目標を明確にしたコースと、ある意味目標の漠然としたコースの両方を設置する必要がある気がします。学校が工夫をして行う学校設定科目、この学校ならではの科目を設定することもでき、逆に、特色ある学校づくりの核になるコースではないかと思えます。決まった科目を置くコースよりもある意味魅力あるコースに仕立てられるし、将来育て甲斐があるコースのような気がします。というのは「総合文理」「健康福祉」「情報ビジネス」は明確な内容が見えます。例えば「情報ビジネス」コースの初級アドミニストレータ等、三好の商業科の専門性が見えます。しかし「教養実践」コースこそ不思議な魅力を置くコースにしたいし、学校づくりの核にできたらなあと思えます。

委員

立派ないろいろなコースを設定されていますが、総合文理コースの存在が薄くならないでしょうか。現実に優秀な生徒は、脇町高校とか池田高校に行く風潮があります。しかしながら辻高校は希望者も多くなってきているし、総合文理の位置付けをしっかりとしていかないと、総花的では優秀な

生徒が集まらないし、存在が薄まると感じます。コースの特色を活かし、充実させることが課題だと思いますし、それによって生徒も集まると思います。

委員

教養実践についてですが、先生方が努力されて希望が増えてきました。ところがその理由を子どもたちに聞くと、「入学して何々する」という前に、「辻高校の先生はこうこうしてくれる」と言います。今してくれていることに対する評価ではありますが、その上に、教育内容に明確な目標を掲げることが必要だと思うのです。

委員

総合文理コースについてですが、最初に県教委から、普通科は池田高校に、後は辻高校と三好高校との統合した新高校にとの話もありましたが、総合文理コースと池田高校との関係がどうなるのかとの心配があります。中学校の生徒の取り合いにならないかということです。従って、教養実践コースは辻高校のいろいろな状況の中で、総合文理コースの中に組み入れられないかと考えます。

委員

池田高校の普通科については、前回委員さんから意見がありました。この協議会は辻高校と三好高校の再編を考える協議会ですが、辻高校に普通科があり、池田高校にある普通科との関連も出てきますので、2校の新しい学校の内容づくりをした後で、池田高校のことについても時間を取ったらと思うのですがどうでしょうか。

委員

池田高校のことが議論に出てくることは好ましくないと考えます。例えば、辻なら辻高校の中で、1年生は6クラスすべて辻高校でいて、2・3年生からはコースとか三好高校の方に行くなど分かれたらどうでしょうか。そうすれば、総合文理コースと池田高校との絡みはないと思うのですが。

委員

三好の生徒は激減していますし、遠距離通学をしている状況もあります。三好郡でカバーできる教育体制が必要ではないでしょうか。その点で、池田高校の魅力づくりにも触れる必要があるのではないのでしょうか。

委員

子どもたちのことが触れられていないと思います。子どもたちが選んで、その高校に入学したらいいのではないですか。三好地域の子どもが美馬地域へ、美馬地域の子どもが三好地域へ来てもいいと思います。今考えるのは、子どもたちをどうしたらよいかという問題、子どもたちが減少することから、80名を切って十分な教育ができないかもしれない状況を考慮して、辻高校と三好高校の2校の再編のことではないのでしょうか。

委員

今の発言は、前向きな話であると思います。それが協議会だと思えば、協議の中ではゆっくり話をする必要だと思えます。

委員

美馬地域に行ったりするのをだめと言っているのではないのです。何故出て行くのかを考えると三好地域に対応できる学校、教育がないからではないでしょうか。だからそうした学校、教育を作る必要があるのではないかと言っているのですが。

委員

美馬地域への流出とか流入とかではないと思います。それは、大人だけの話ではないでしょうか。そんなことを子どもは考えていません。子どもたちが何を考えているのかが大切だと思うのです。

委員

辻高校の総合文理コースを期待して入学し、池田高校のトップが辻高校のトップと同じになってもいいのではないですか。

確認ですが、三好高校で人数が少なくなり、クラス替えができなくなってくることで起きている人間関係の軋轢が見えてくる場所があります。そこで、例えば1年生では同じような課程をこなしておいて、2年生から専門に分かれるのは可能かどうか知りたいのですが。

委員

1年生と一緒に学んで、2年生から専門に分かれるのは難しいと思います。農業がおもしろいと感じる子どもを育てるのは、1年生の時から教師が語りながら、一緒に水をやり草を採りながら育てていくことが大切だと考えます。卒業時に、三好高校で学んでよかったと生徒が思う教育は、三好の農業としての固まりで愛情を注いで育てられるものだと思います。それが私たちに課せられた使命でもあります。三好高校の校舎を使って教師が愛情を注いで育てていく。多様な子どもを育てていくことにおいて農業教育を活用したいし、その教育で救われていく生徒が多くいるとも思います。その中で、可能性のある生徒は大学進学させるし、就職したい生徒は就職させます。小規模化しても仕方はないですが、そうした三好高校の環境の中で教育したいと思っています。

委員

善し悪し云々よりも、新しい学校づくりの中で、提示された教育内容の案は、事務局が知恵を出している立派な内容であると思います。問題は、両者の中で我田引水にならないよう、統合した学校としての教育ができるようにと思っています。大学は1年間は総合的にやり、2年生から専門に入っていきます。

委員

これから後の学校間連携でも協議されますが、仮に三好校舎・辻校舎になれば、例えばマイクロバスもあるので、バスを利用して、進学希望の生徒は辻高校の放課後補習に移動させ、一緒に学習したり、部活動も一緒に取り組んでいくなど、可能な限り連携していく必要があります。こうしたシステムについては、今後研究していくことが必要となります。今後の協議でもあると思いますが、1つの学校になったメリットを考えていく必要があるのではないかと考えています。

委員

2つの学校が1つになるのですから、どんな交流ができるのかできないのか。できるなら何をするのかを協議することは大切であると思います。

委員

この問題は、学科をどうしていくのか。中身をどうしていくのかという根幹の問題であり、本日の協議会だけの議論では結論を出せる内容ではないと思います。次回にも時間をいただき議論したいと思いますので、議論が高まるよう、いろいろな意見を出していただきたいと思います。

委員

池田高校の普通科をどうするかですが、以前、三好地域の子どもが来る学校づくりや他地域の子どもが来たい学校づくりを、3校がいかに推進する必要があるかについて発言させていただきました。また前回は、少子化が進行する中で、池田高校はどうなるかをお話しさせていただきました。

現在、各学年6クラスで、英数国の教員は6名ずつです。物理、化学、生物、地学、日本史、世界史、地理の専門教員もいます。そうした中で、習熟度別学習もやって学力を付けていますし、本年度の推薦でも、名古屋工業大学工学部、岡山大学歯学部にも合格しています。しかし、H20年度からは1学年5クラスになります。そうすると教員が2名減、さらにそれが3年間続けば6名の教員が減少し、現在の進学指導体制を維持するのは難しくなります。さらに辻高校と三好高校の統合再編がH24・25年度くらいに実施されるとすれば、その直後の平成27年度ころより、池田高校は4クラスになることも考えられます。単純にいうと、現在よりも教員数が12名減少し、これまで通りの進学体制を維持できるかという点も難しいと考えます。三好地域の進学校として培ってきたものが崩れていく。そうなれば三好地域の子どもが他地域の進学校へ行き、遠距離通学を余儀なくされることとなります。前回、理数科なり応用数理科なり数理科学科を置くことが必要であるとの話も出ましたが、どうすればよいかを考えました。そこで今月25日に、本校の2名の教員が京都の堀川高校を視察してくるようになっていきます。堀川高校は、市立高校の中でめざましい成果をあげた学校であり、探求科は京都市の広範囲から生徒を集め、すばらしい進学実績を上げている学校です。このように、三好地域の進学実績をあげる学校をつくっていかないと、三好地域の子どもを教育できません。見過ごすと、池田高校は現在の状況でなくなります。何か早急に手を打つことが必要だと考えます。

委員

三好地域の子どもを三好地域でカバーできる学校をつくっておく必要があると考えます。

委員

地域にとっても高校があることで大きい効果があります。

委員

生徒数が減少する中で、池田高校は現在の6クラスからH20年度5クラスに、H27年度くらいからは4クラスになることが予想され、教員も減少します。現在の進学指導体制を維持できないとの意見でありましたが、子どもたちにとって魅力ある学科を池田高校として考えていくことが必要だと思います。

委員

協町高校や川島高校も、池田高校と同様のことがおこっています。人口の減少は止めようがありません。しかし、私たちがここで、どうこうしようとしても仕方がない。将来には池田高校の生徒や先生が減少するのは議論をしても仕方がないことではないでしょうか。

委員

何らかの手も打たずにこのままでいるのではなく、池田高校は池田高校として魅力ある学校づくりをする必要があるということを言っているのです。

委員

そういう議論でなく、生徒数が減少してきて現状を維持できないので、国に要望して先生の数を増やしてもらうなどの方法で学力を上げていくことなどしか、私たちにはできないのではないのでしょうか。そのために大人が一生懸命働いて税金を払っていくこと。それを国に訴えることが大切だと思います。子どもが中学校の時から、1クラス30人学級にしてほしいと訴えてきました。

委員

新しい学校について、魅力ある学校づくりについての意見を出しているわけで、池田高校についても同じことではないでしょうか。私が、委員に替わって多くを言うのも立場上良くないとは思いますが、今日は、委員さんがご欠席ですので、前回このことについて、議論の時間を取るよう強い要望の発言がありました。従って、三好地域全体の話をする必要があるのではないのでしょうか。

委員

最初の再編の話で3校を2校への再編と思って協議してきましたが、確かに池田高校を含めて三好地域の学校づくりを考えていくことが必要であると感じました。これまでは成績での振り分けで

進学先を決めていたのが現状だと思いますが、今こそ子どもたちが学ぶそれぞれの学校の特色を考え、池田高校を含めて打ち出していくことが大切だと思います。池田高校は確かに県西部の端の学校ですから、祖谷、山城地域等にとっては、最も近い学校です。話を聞くうちに不安になりましたが、何か打つ手があると思うのですが。

委員

最近卒業してきた人と実際に一緒に仕事をして思うことは、自分で勉強して自ら取り組もうとするような、新しい学校の基本方針にある「自己実現に向けて努力する生徒」の育成が重要だということです。事務局から提案された内容はよくできているのでこれで良いと思います。池田高校との兼ね合いについては、最終的には子どもが選ぶものであると考えます。逆に県外でも良いのではないのでしょうか。ただ、子どもの数が減ったら先生が減るとするのは国の基準があるのですが、県で予算を出してもらい、先生の数を増やしていただきたいと思います。県で決められることと思うのですが。

委員

教育予算を増やせばよいのでしょうか、現実を踏まえた議論も必要ではないでしょうか。

委員

進学校を徳島市内だけでなく、地方へも置かなければならないと思います。格差を作るようなことではいけない。教育については、身を削って教育の推進にあたる必要があります。

委員

池田高校の学校づくりで、考えられている新しい学科の予算は必要なのですか。

委員

新しい学科はお金を使わずに工夫できればいいと思っています。

委員

新しい校舎や設備を作ることではないので、池田高校も池田高校で魅力ある学校づくりをしなくてはならないと思います。

今日はもうひとつ協議事項があります。「特色ある教育」について事務局から説明をお願いします。

○「特色ある教育」の説明

委員

事務局より「特色ある教育」についての提案がありましたが、ご意見ををお願いします。

委員

自分の子どものことを考えても、こんな学科があったら子どもの人生も変わったのではと思います。こうした新しい学校の教育は大変良いが、先生方は大変だと思います。勉強が嫌いな子どもたちを育てていく教育は、精一杯応援していこうと思っています。

委員

サテライトの授業についての話が出ていましたが、農業科には少人数での教育ができるようなイメージがあります。中学校の不登校や特別支援が必要な子どもを教育できる学校をつくることも必要だと思います。

委員

現実から考えると、新しい学校になって多様な生徒たちに入学してもらい、教育していくのが農業の本質になります。今のシステムのいいところを残した中でやっていきたいとも思います。それは小集団での授業や実習、また農業の科目の半分以上は実験実習になっていますので、こうした生きた教材とかかわる中で、特色ある教育を実践していきたいと考えています。農業高校で学んで伸びる生徒もいますし、才能に気がつく生徒もいます。以前、鶏の雌雄を見分けるのが得意で、今では日本でも有数な人に成長した卒業生もいます。このように、多様な学びを必要とする子どもたちを農業教育の中で育てようと考えています。

委員

本日の協議は大変重要な内容です。改めて、次回の協議会に再提出していただきたいと思います。

熱心なご協議ありがとうございました。新しい学校の姿がより具体的になってきたのではと思います。三好地域の良さを最大限に活かし、子どもの思いに応えられる教育を進めていきたいと思えます。

県教育委員会

1件確認をさせていただきます。

委員より看護科についてのお話がありましたが、議事録に載せて欲しいとのことと理解しています。三好地域協議会としての新しい学校への学科の設置は、普通科と農業科で方向性としては合意ができているのかなと思っています。新しい学校の学科は、普通科コース制と農業科で、看護科は設置しないということよろしいのでしょうか。確認をお願いします。

委員

看護科の要望は、三好教育振興協議会の中で長年続いてきたものです。そういった地域の意見があるということ、私も協議会の責任者として皆さんに知ってほしいのです。知っておいてもらわないと協議会で協議したことが別のものになってしまいます。

今の状況から、新しい学校づくりの中に看護科を設置するのは難しいと判断しております。

委員

地域のニーズを議論にあげて協議したところ、協議会では看護科は難しいので、普通科と農業科との方向になったとのこと。

池田高校について全体としては、池田高校としての特色ある学校づくりとして、新しい学科を考えた方がいいとの意見になったと思います。

委員

次回の協議会では、コースについても、本日の意見を反映させて再度提案をするのですか。

事務局

次回の協議会では、コースについても再度提案をさせていただきます。いろいろなご意見がありましたので、一つ一つの意見をすべて活かすことは難しいと考えていますが、皆様方のご意見をかみしめまして事務局で協議し、案を提案させていただこうと思います。

委員

本日はお疲れさまでした。